

TOKYO

商工連 Plaza

とうきょう商工連プラザ

商 工 会 は 行 き ま す 聞 き ま す 提 案 し ま す



CONTENTS

- ② 「令和6年度 第1回臨時総会」開催
- ③ 国分寺市商工会 災害時協定締結
定期人事交流
- ④⑤ 多摩ものづくり未来応援塾
- ⑥ 多摩地域商工会エリアの景況 6年度第4四半期
多摩・島しょ地域のイベント
- ⑦ 我が社の経営革新計画(奥多摩ピラティス)
- ⑧ 島おこし・多摩おこし(有限会社青沼興業／新島村)

清掃業から宿泊業へ
地域を支える多角的経営の道

有限会社 青沼興業

代表取締役 青沼 信氏

P8に関連記事「島おこし・多摩おこし」を掲載

令和6年度 臨時総会 開催 第1回

東京都商工会連合会

東京都商工会連合会（都連）は3月27日、「令和6年度第1回臨時総会」を開き、令和7年度の事業計画、一般会計収支予算など9議案を上程し、全議案が可決承認されました。また、令和7年度の事業計画では、4つの基本方針と、それを実現するための11の重点項目（別表）を決定しました。

臨時総会の開会に先立って、山下真一都連会長は、「2024年は訪日外国人旅行客の数が過去最高を更新するなど、賑わいが戻りつつあることが実感できる1年でありました。一方で、多摩・島嶼地域の中小・小規模事業者を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にあることから、多くの課題の解決に向けて会員の皆さまからの現場の声に耳を傾け、役職員が一丸となって事業者の持続的な発展に向けた事業を進めてまいります」と述べました。

多摩・島嶼地域の中小・小規模事業者が置かれている経営環境は、原材料コストの上昇に対する価格転嫁問題や人手不足、賃金引上げの対応など問題が山積し、依然として厳しい状況にあり、多くの経営課題に直面している。このような情勢の中、多くの事業者がデジタルトランスフォーメーション（DX）、持続可能な開発目標（SDGs）、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが急務となっています。

都連は、激変する経営環境の中で多摩・島嶼27商工会とともに「小規模事業者から理解され、信頼され、利用される商工会」を一層目指していきます。特に価格転嫁問題や事業承継については、「多摩・島しょ経営支援拠点」にて実施する専門家等によるアドバイスや事業者に寄り添った商工会経営指導員による伴走型支援を充実させます。成長分野への進出など新たな分野への取り組みについては、「多摩・島しょ事業創造支援拠点」による実態に即した実効性の高い支援を強力に推進します。

人材の確保・育成に課題を抱える中小・小規模事業者には「多摩地域人材ダイバーシティ・DX・GX推進ネットワーク事業」により、多様な人材の確保、育成等の支援とともに、DX・GXを推進するリーダーの育成、女性活躍推進などの働き方改革についても対応していきます。

多摩・島嶼地域における観光をビジネスに結び付けることは地域の持続的発展と活性化にとって重要であることから、「多摩観光推進協議会」を活かし多摩を訪れて体験するプロジェクトや多摩・島嶼地域の持つ魅力の情報発信に取り組みます。

なお、本年4月より東京都カスタマーハラスメント防止条例が施行されたことに伴い、社会的な解決に向けてマニュアル作成や普及啓発等により、東京都と連携した支援を実施します。

これらの取り組みにより「2025年多摩島嶼商工会等ビジョン」の第Ⅱ期アクションプランである「組織力強化」、「支援力強化」、「人材の確保・育成」、「財政基盤確立」の4つの行動戦略を着実に実行して参ります。



▲臨時総会の模様

4つの基本方針

- ◎「多摩・島しょ経営支援拠点」による専門家支援や商工会経営指導員による伴走型支援の充実
- ◎「多摩・島しょ事業創造支援拠点」による実態に即した実効性の高い支援を強力に推進
- ◎「多摩地域人材ダイバーシティ・DX・GX推進ネットワーク事業」による人材の確保や育成等の支援
- ◎「多摩観光推進協議会」による多摩・島嶼地域の魅力の情報発信

基本方針を達成するための11の重点項目

- ①経営指導員等職員の支援力強化と商工会利用の促進
- ②小規模事業者の持続的発展に寄り添う商工会組織力の強化
- ③2025年多摩島嶼商工会等ビジョンの着実な実行
- ④情報セキュリティと安全管理体制の強化
- ⑤高度化・多様化する経営問題に対応する相談、支援の充実
- ⑥多摩地域の産業振興の推進
- ⑦島しょ地域の産業振興の推進
- ⑧財政力向上支援の強化
- ⑨多摩・島しょ地域の発展と多摩の観光・産業振興ネットワーク構築に向けた取り組み
- ⑩自然災害等に対する支援の継続
- ⑪政策提言及び意見活動

商工会トピックス!

国分寺市商工会と国分寺市が災害時協定締結!

国分寺市商工会は、「防災備蓄品の保管及び災害時における配布の支援」と「災害時における地区防災センター運営等支援協力」に関する協定を国分寺市と締結した。

国分寺市商工会では会員に募集を行い、国分寺市が購入した携帯トイレを商工会員の事業所などに保管し、災害が発生した際には、商工会員が地域住民に配布を行う。支援を必要とする市民が近くの事業所で受け取

ることが可能となる。

また、震度5弱以上の地震が発生した際には、協力員として登録された商工会員が市内の避難所に駆け付け、国分寺市職員の活動を支援する。

国分寺市商工会の込山雄茂会長は、「商工会の会員事業者が、国分寺市と連携し、地域防災活動に協力することで、安全・安心のまちづくりを推進していく」と抱負を語った。



人事交流

▼退職

(2月28日)▽あきる野 主事 杉浦敬太

(3月31日)▽三鷹 係長 五十嵐健▽三鷹 業務 佐々木悠▽西東京 業務 秋山善彦▽再雇用 あきる野 主事 船木一男▽八丈町 主事 金田光▽稲城市 係長 高桑康輔▽昭島市 主事 見澤潤一▽小笠原村 主事 杉田早苗▽都連 多摩観光推進協議会事務局 事務局長 駒治徳▽都連 地域振興課 課長補佐 石崎寛之

東京都商工会連合会と各商工会は、4月1日付けで定期人事交流を行いました。

(4月1日)

【三鷹】▽係長(調布市 係長)中川貴史▽記帳(都連 業務)赤川菜月

【日野市】▽課長補佐(日野市 係長)久保雄太▽主事(日野市 記帳)酒井幸太郎▽業務(三鷹 記帳)濱田夏美

【清瀬】▽再雇用 主事(再雇用 主事)古川裕朗▽再雇用 主事事務(再雇用 主事事務)平原紀子

【小平】▽課長(小平 課長補佐)栗原明生▽係長(国立市 係長)田村理央▽主事(小平 記帳)丸山ちえ▽記帳(都連 業務)君和田亮太▽再雇用 主事(再雇用 主事)菅原康宏

【小金井市】▽再雇用 主事(再雇用 主事)伊藤啓一

【西東京】▽課長補佐(瑞穂町 課長補佐)米原慎二▽主事(日野市 主事)高橋大樹▽再雇用 主事(西東京 主事)池田領司

【大島町】▽勤務延長 事務局長(勤務延長 事務局長)植松隆▽主事(大島町 記帳)足立一樹

【調布市】▽主事(西東京 主事)佐々木大介

【東久留米市】▽事務局長(羽村市 課長)小山昌宏▽主事(都連 主事)新田晃晃

【東村山市】▽係長(東村山市 主事)松本祐太▽係長(東村山市 主事)八子知久▽主事(小平 主事)横山勇▽主事事務(都連 主事事務)菅原真弓

【国立市】▽係長(東久留米市 主事)佐貫純哉

【あきる野】▽課長補佐(昭島市 課長補佐)森田陽一▽主事(あきる野 記帳)中島里佳子▽主事(あきる野 業務)矢坂郁弥▽新規採用 記帳 水間由梨

【東大和市】▽主事(東大和市 記帳)若林理子▽主事事務(東村山市 主事事務)桐生進▽新規採用 記帳 小林亮範

【八丈町】▽勤務延長 事務局長(勤務延長 事務局長)吉岡正▽新規採用 記帳 浅沼隆太

【稲城市】▽事務局長(稲城市 課長)寺田龍▽課長(都連 課長)白石徹▽再雇用 主事(稲城市 事務局長)新藤斉

新事務局長



東久留米市事務局長
小山 昌宏



稲城市事務局長
寺田 龍



都連事務局次長
組織支援課長事務取扱
種子 繁樹

【羽村市】▽係長(東村山市 係長)岡田真樹

【三宅村】▽再雇用 事務局長(再雇用 事務局長)村上康

【瑞穂町】▽課長補佐(瑞穂町 係長)比留間武▽係長(東大和市 係長)古賀茂樹

【昭島市】▽勤務延長 事務局長(勤務延長 事務局長)武藤茂▽課長補佐(福生市 課長補佐)福島茂▽係長(都連 係長)濱中敬二

【新島村】▽勤務延長 事務局長(勤務延長 事務局長)前田明

【神津島村】▽再雇用 事務局長 主事兼務(再雇用 事務局長 主事兼務)土谷良顕

【小笠原村】▽主事(小笠原村 記帳)高橋友香

【日の出町】▽勤務延長 事務局長(勤務延長 事務局長)田中剛▽再雇用 主事(日の出町 課長)田中庸仁

【都連】▽事務局長 地域振興課長事務取扱(都連 事務局長)小野寺崇▽事務局長次長 組織支援課長事務取扱(都連 組織支援課長)種子繁樹▽勤務延長 事務局次長 総務課長事務取扱(勤務延長 事務局次長 総務課長事務取扱)小林義浩▽勤務延長 総務課人事給与制度担当課長(勤務延長 総務課人事給与制度担当課長)渡邊敏政▽新規採用 勤務延長 多摩観光推進協議会事務局 事務局長 酒井一成▽地域振興課 課長補佐(あきる野 課長補佐)大口主真▽総務課 課長補佐(総務課 係長)富永裕一郎▽組織支援課 課長補佐(西東京 係長)渡部順一▽地域振興課 主事(羽村市 主事)柴田総司▽再雇用 組織支援課 主事(再雇用 組織支援課 主事)高橋誠▽再雇用 企業支援課 主事(東久留米市 事務局長)石川善則▽総務課 業務(東大和市 業務)春川政江▽総務課 業務(福生市 業務)室田清美▽新規採用 地域振興課 業務 則俊月花▽新規採用 多摩観光推進協議会事務局 業務 秋田みなみ

地域名は商工会名。都連は東京都商工会連合会、業務は業務支援員、記帳は記帳相談員の略です。

「出会い」「学び」「交流」でものづくりを担う人材の成長を応援

「多摩ものづくり未来応援塾」を1期生16名が卒業

多摩地域の将来のものづくりを担う人材の成長を応援するため「東京都商工会連合会(都連：山下真一会長)と「多摩ものづくり応援団(応援団：団長(株)相馬光学浦信夫会長)」が昨年9月にスタートさせた「多摩ものづくり未来応援塾(以下では、未来応援塾)」が終了。2月20日の卒業発表を経て1期生16名全員が無事に卒業しました。令和6年度は図表1に示すように6回の未来応援塾と1回の特別講義を行いました。「出会い」「学び」「交流」により塾生の成長を応援する未来応援塾について紹介します。

図表1 令和6年度「多摩ものづくり未来応援塾」

- ◆日時： 原則毎月第3木曜日
18:00～21:00(特別講義及び第4回・第6回は別)
- ◆会場： 産業サポートスクエア・TAMA
東京都商工会連合会会議室(特別講義及び第4回は別会場)
- ◆参加費： 無料(但し実習等で必要な費用は自己負担)

日程	内容・講師
9月19日(木) 18:00～21:00	【開講式】・オリエンテーション 第1回 これからのものづくり、これまでのものづくり (I) 講師：多摩ものづくり応援団 副団長 静岡県立大学客員教授・兵庫県立大学大学院客員教授 小川 正博 氏
10月4日(金) 16:00～17:15	【特別講義】第2回ものづくり応援会議 ※会場 フォレストイン・昭和館1F 桜林 これからのものづくり、これまでのものづくり (II) 講師：日本電子株式会社 相談役(前代表取締役会長) 栗原 権右衛門 氏
10月17日(木) 18:00～21:00	第2回 これからのものづくり、これまでのものづくり (III) 講師：株式会社相馬光学 代表取締役 浦 明子 氏 株式会社土田製作所 代表取締役 土田 秀幸 氏 株式会社ナガセ 代表取締役 長瀬 雄一郎 氏
11月21日(木) 18:00～21:00	第3回 DXで磨きかける、ものづくり中小企業の優位性 講師：杉並電機株式会社 取締役社長 福田 礼彦 氏
12月19日(木) 14:00～17:00	第4回 ものづくり中小企業における技術戦略 ※会場 株式会社伊東NC工業(武蔵村山市) 講師：多摩ものづくり応援団 副団長 株式会社伊東NC工業 会長 伊東 歌津己 氏
1月16日(木) 18:00～21:00	第5回 ものづくりにおける大学や研究機関等と中小企業の連携について 講師：多摩ものづくり応援団 団長 株式会社相馬光学 会長 浦 信夫 氏 講師：一般社団法人東京都産業技術振興協会 理事 近藤 幹也 氏
2月20日(木) 15:00～18:00	第6回 これからのものづくりについての私の考え方 全塾生16名による卒業発表 【開講式】

■「これからのものづくり、これまでのものづくり」をテーマに3回連続の開催

ものづくりをとりまく環境は不確実性が高まっており、これからのものづくりは、これまでのものづくりの延長線上にはありません。塾生には広い視野と自身の立ち位置を理解してもらうため、同じテーマで中小企業を知る学識者、多摩地域の大手製造業と中小製造業から講師を迎えました。

第1回は「東京のものづくりといえば多摩」に自信を持ち出会いと交流を経験

第1回は開講式、オリエンテーションに続き、小川副団長(静岡県立大学・兵庫県立大学大学院客員教

授)から講義がありました。「東京のものづくりといえは多摩といわれるように多摩には優秀な企業が多い。これまでの日本のものづくりは『安くて良いものをつくる』というパラダイムで躍進してきた。しかし、低コストでのものづくりが困難になるにもかかわらず、また顧客価値の多様化にも対応せず競争力の低下を招いた。これからのものづくりには、新たな顧客価値の創造による事業のイノベーションが求められる。」との内容でした。

その後軽食を取りながら塾生同士、応援団員との初めての交流を経験。塾生の多くは多摩でものづくりをしていることに自信を持つとともに、これからのものづくりでの事業のイノベーションへのチャレンジの重要性を認識しました。

特別講義は経営危機を変革につなげ成長を実現した大企業経営者が自ら語り塾生と交流

日本電子(株)の栗原相談役の特別講義は「災禍は変革の源」と題して、社長就任直後にリーマンショックに直面するも企業風土の改革に取り組み、経営会議で各部門の泣き言をあえて聞き、問題点を見える化して弱みの克服に努め、強みを促進しブランド力を高めて抜本的な経営構造改革により乗り越えたとの内容でした。

講義後の交流会で、栗原相談役や経営者OBの応援団員と親しく言葉を交わして出会いと交流をすることで大企業の経営を学ぶだけでなくこれからのものづくりを考えていく上で大きな自信となりました。

第2回は3名の先輩経営者の話を楽しく聞き和やかに交流

多摩地域の中小製造業経営者である(株)相馬光学の浦明子社長、(株)土田製作所の土田秀幸社長、(株)ナガセの長瀬雄一郎社長を講師に小澤都連事務局次長が進行するユニークな対談形式の講義。光学機器メーカー、精密機械加工、ヘア絞り加工と事業内容も違う3名が自社のものづくりの特徴、経営の現状、これからのものづくりの方向について熱く語りました。

後半の交流では塾生が3つの島をつくり、交代で講師が回るスタイルで交流は和やかに進みました。

塾生からは「皆明るい雰囲気楽しく、一挙に話を聞けた。」「対談形式で聞けたので、それぞれの考え方や、経営の違いが分かりやすかった。」「自社の強み・弱み分析や社内の仕組みの見直し、市場分析、昨今の仕入れ資材高騰や人手不足など、リアルな考えを聞くことができ、具体的な方針の策定や今後のモチベーションでも大きく力を頂いた。」等。また交流についても「講師が順番に回ってくることで、まんべんなく全ての方と挨拶・話ができた。」「3つの島に分けてくれたことにより塾生同士もより深く濃い交流

ができた。」等。

講師陣による真剣で熱い講義と、楽しく和やかな雰囲気での出会いと交流は塾生一人ひとりがこれからのものづくりに取り組むきっかけとなりました。

■第3回はものづくり中小企業のDXを工場におけるIoT化の実践に学ぶ

自社工場でIoT化を進めている杉並電機(株)福田礼彦社長を講師に中小企業がDXにどう取り組んだらよいかテーマ。いきなりDXの実践例に入るのではなく、「DXになぜ取り組むか」を考えるためグループに分かれてブレインストーミングを行いました。その上で杉並電機のIoTの実践例について詳しい講義がありました。

塾生からは「DXは、興味はあっても苦手な分野なので、まずは何をするかという切り口での話が有難かった。」「グループで行ったプレストが大変参考になりました。」「社内でもDX化、IoT化を進めていきたいと思います。是非とも工場見学やさらなる勉強会も実施できたらと思いました。」等。

工場の見学を希望する塾生が多かったため、福田社長のご協力を得て今年1月23日に未来応援塾の「特別グループ研修」として「生産現場のIoTを見て体験」を実施しました。参加した塾生は工場でのIoT活用を見学し、自分でつくるIoTを体験しました。

■第4回は試作開発型企業の技術戦略について工場視察と現地講義

応援団副団長の伊東歌津己(株)伊東NC工業会長を講師に企業を訪問しての現地講義。当日は伊東副団長の他6軸複合機は工場長、工具管理システムは担当者、自社製品については開発担当者から説明がありました。内容も創業から販路拡大、測定部門の強化や設備投資・技術人材の育成等の技術戦略、事業承継までと多岐にわたりました。

塾生からは「工具管理ソフトを使用し工具の管理に1人を配置し、三次元測定機を複数台所有するなど人員配置や設備投資の仕方に独自性があり興味深く感じ



▲第3回DXになぜ取り組むかをグループでブレインストーミング



▲第4回工場を視察しての現地講義

ました。」「他社の工場内を見られる機会は滅多にないため視察という形で見学でき、貴重な体験でした。」「様々な挑戦をされており、とても刺激をもらいました。仕事は基本的には断らないというスタンスは技術がないと成立しないので見習っていきたい。」等。

■第5回は大学や研究機関との連携にものづくり中小企業がどう取り組むか

塾生にとって経験がない産学公連携とは何かから

講義は始まりました。講師は東京都立産業技術研究センターや都立大学で産学公連携をサポートしてきた近藤幹也(一社)東京都産業技術振興協会理事と、企業側で長年産学公連携に取り組んできた浦信夫応援団長。「産」と「学・公」のそれぞれの立場からの実際の例をあげての具体的な講義でした。

塾生からは「近藤幹也氏の産学連携とは何か、このような使い方があることなどの話を聞いた後に実際に使われた経験のある浦信夫会長の話を聞いたことで理解が深まった。」「産学連携という言葉はよく耳にしており、大まかな内容は理解をしているつもりでしたが、本日の講義を聞きイメージが変わりました。」等。

■第6回は「これからのものづくりについての私の考え方」の卒塾発表

発表方式は自由で5分間の発表と3分間の質問タイムで16名が発表しました。欠席した2名は動画での発表でした。発表内容は未来応援塾での「出会い」、「学び」、「交流」から得たものに多くの塾生が触れており未来応援塾の目的が達成できました。

その後の閉講式では一人ひとりに卒塾証書が浦団



▲第6回卒塾発表
発表方法は自由、参加応援団員からも質問

長から手渡され喜びいっぱいの塾生の笑顔が見られました。最後は浦団長と渡辺都連専務理事を囲んでの写真撮影をしました。

場所を変えての塾生に応援団員や事務局も参加した卒塾交流会も大変盛り上がり、今回できたつながりをさらに深めて発展させていくことになりました。

■未来応援塾の成果と今後について

令和6年度の未来応援塾は初めての取り組みであり反省点も多くありました。しかし、塾生の成長を応援することができ、1期生の間にできたネットワークは、チーム名「未来応援塾」での駅伝大会への出場や、仕事上でも情報交換や取引等にまで広がっています。応援団としてはこうした1期生の取り組みを都連とともに引き続き応援していきます。

また、令和7年度「多摩ものづくり未来応援塾」については7月に塾生募集を行う予定です。



▲令和7年2月20日の未来応援塾閉講式
浦団長と渡辺都連専務理事を囲んだ1期生16名

中小企業 景況調査

多摩地域商工会エリアの景況

6年度
第4・四半期
1～3月

売上高は停滞

仕入価格と労務費の上昇が採算の足を引っ張る

製造業

売上高前期比DIは悪化。採算期中DIは横ばい。資金繰りDIは改善。経営上の問題点の第1位は5期連続「原材料価格の上昇」。

小売業

売上高前期比DI、採算期中DI、資金繰りDIのすべてが悪化。経営上の問題点の第1位は14期連続「仕入単価の上昇」。

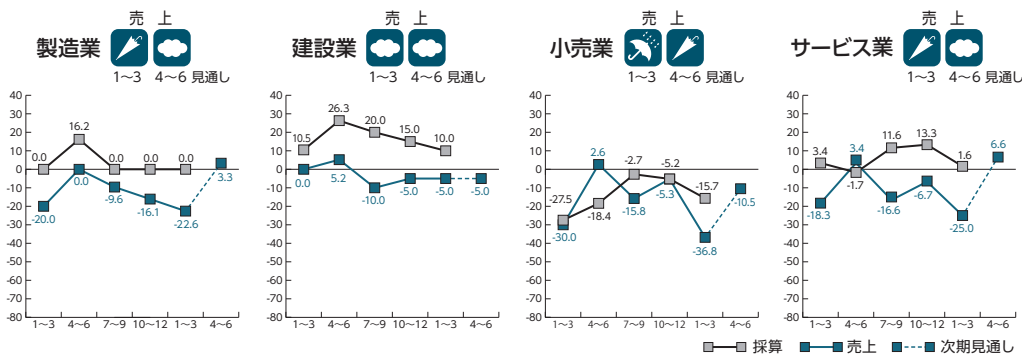
建設業

売上高前期比DIと資金繰りDIは横ばい。採算期中DIの伸びは縮小。経営上の問題点の第1位は16期連続「材料価格の上昇」。

サービス業

売上高前期比DIと採算期中DIは低下。資金繰りDIは改善。経営上の問題点の第1位は12期連続「材料等仕入単価の上昇」。

売上高(前期比DI)・採算(期中DI)の推移



調査企業の声

- *仕入部材が2倍以上になる通達が普通に届く。自社の商品定価設定が日々上昇している。最低賃金も上がり、受注は減少し、値上げ交渉も難しくなっている。(電気照明器具製造業)
- *材料価格を含む物価上昇が止まらず、収支が安定しない事に不安を感じる。(内装工事業)
- *求人応募があまり来ない。時給アップに伴い扶養で働いている方の労働時間が減り、人手不足に拍車をかけているので困っている。(菓子小売業(製造小売でないもの))
- *受注が増える一方、経費負担も増加し、人材確保も含め、収支が安定するまでには至らない状況が続く。(受託開発ソフトウェア業)

6月7月 多摩・島しょ地域のイベント

中止あるいは延期されることもあります。念のため、主催者に日にち・会場などを確認の上、お出かけください。

日程	イベント名	会場	主催者・問い合わせ先
6月 7日(土)	新島村 第14回式根島マラソン大会 6kmの部、12kmの部(個人、小学生6km)	式根島特設コース	東京アイランドシリーズ大会事務局:042-379-2585
7日(土)～22日(日)	東村山市 第37回東村山菖蒲まつり 露天及びイベント	北山公園	東村山市:042-393-0511 東村山市商工会:042-394-0511
7月 5日(土)	新島村 第31回新島オープンウォータースイミング A:4.5km、B:3km、C:1.5kmの3タイプのスイムレース	新島村本村特設コース	東京アイランドシリーズ大会事務局:042-379-2585
5日(土)～6日(日)	国立市 第37回くにたち朝顔市 くにたち「朝顔の里」産日本朝顔の販売	JR国立駅南口 大学通り緑地帯	くにたち朝顔市実行委員会:042-575-1000
19日(土)～20日(日)	八丈町 第53回八丈島夏まつり 夜店出店、ステージイベント、大抽選会	八丈町庁舎 特設会場	八丈島夏まつり実行委員会: 04996-2-2121
20日(日)	狛江市 狛江古代カップ第33回多摩川いかだレース 手作りのいかだで多摩川を下り、スピードとデザインを競う	多摩川五本松～ 宿川原堰堤前	狛江古代カップ多摩川いかだレース実行委員会(狛江市市民生活部地域活性課:03-3430-1111)
26日(土)	日の出町 日の出町合併70周年・町制施行50周年記念 第21回ひので夏まつり 花火、イベント、模擬店、キッチンカー出店	日の出町民 グランド	ひので夏まつり実行委員会 事務局:042-588-4101
26日(土)～27日(日)	三宅村 第30回ふれあいランド三宅島マリンズコーレ21フェスティバル 三宅島の夏の一大イベント(商工まつり) ステージでの芸能披露やサークル活動の発表、数多くの模擬店が出店し、大いに賑わいを見せる。初日は大打上花火大会が締めくくる。	鍋ヶ浜港駐車場	三宅村商工会:04994-2-1381
26日(土)～8月3日(日)	清瀬市 第15回清瀬ひまわりフェスティバル 約24,000㎡の広大な農地に約10万本のひまわりが花を咲かせます。期間中は、清瀬産の新鮮な野菜やひまわりの切り花の販売などを行います。	清瀬市下清戸 石井ファーム、 小寺ファームほか	清瀬市・清瀬市農ある風景を守る会:042-497-2052

日本発明振興協会 あなたの発明・研究・特許を育てよう!

日本発明振興協会(東京都渋谷区)は「第45回 発明研究奨励金」の交付申請の受付を開始しました。同奨励金は、中小企業や個人が発明考案を実施化する際の試験研究資金を支援する事業です。奨励金の交付対象となるのは①特許権として登録済みのもの②実用新案は、登録済みで実用新案技術評価書入手済みのもの。審査の

発明研究奨励金

交付申請の受付を開始

締め切り
7月31日

交付決定
11月

上、交付決定者には試験研究に要する直接経費として1件につき100万円を限度に奨励金を交付します。

希望者は、同協会所定の様式の申請書・添付資料各2部他を同協会宛てに提出して下さい。締め切りは7月31日、交付決定は11月です。

申請要領・申請書 同協会のホームページ(<http://www.jsai.org/>)からダウンロードできます。

問い合わせ先 (公財)日本発明振興協会 発明研究奨励金交付事業実行委員会(TEL 03-3464-6991)

わが社の

新製品・新事業への挑戦で、
さらなる飛躍を!

No.42

経営革新計画

奥多摩ピラティス
代表
小関 陸史 氏

■和製ピラティスマシン開発の先駆け

(1) ピラティスとの出会い

小関代表がピラティスに出会ったきっかけは、スポーツ専門学校を経て、サーフィンの選手を目指していた矢先のケガ、それがもとで長引く腰痛からリハビリの一環として取り組み、大きく改善したことによるものでした。

その後、ピラティスの会社でインストラクターとして10年活動し、平成26年に創業、事業所を開設しました。当時のピラティスマシンは大部分が輸入品で日本人の体型に合わないことも多かったのです。そこで、一念発起、和製ピラティスマシンの開発に取り組むことにしました。

(2) 設計図の譲受

ピラティスは、そもそも1920年代にドイツのジョセフ・ピラティス氏が考案したエクササイズです。小関代表が、ピラティス専用のマシンの開発を始めるにあたって、創始者の承継者である、現在アメリカ在住のメアリー・ボウエン氏から特別に設計図を譲り受けることができました。

■事業活動の特徴

(1) 製品開発と指導者養成

現在は、廃校となった奥多摩町小河内小学校の校舎にある、多目的スペースを借りて、ピラティスマシンの企画・開発・販売事業を運営しています。また近年では、ピラティス指導者の養成講座も開始しています。

(2) 特許権等の取得

当所で製造販売しているピラティスマシンは13種類で、木製部分は多摩産材(ヒノキ)を使用しています。また補助器具としても8種類を製品化しており、中でもCord・Innate®(コーディネート)という商品は、特許を取得しています。

(3) 販促活動は展示会と情報発信

当所は販売業の立地条件としては厳しいため、展示会への出展やSNSの情報発信等、積極的に取り組んでいます。

■経営革新計画への新たな取り組み

(1) 新製品開発と経営力強化を目指して

最近では、男性の参加者も徐々に増えており、ピラティス市場は着実に広がりを見せています。それに対応した新たなピラティススタジオの開設や増設の急増、市場の好機と競争激化の中で、小関代表は「新製品の開発と事業規模の拡大、経営力の強化」というテーマで経営革新計画に取り組みました。

(2) 新製品開発計画

○V字型マシンの開発

V字型で傾きのある二つの支持面を持ち、フラット面とは異なるエクササイズが可能となる新製品V字型マシン(商標名:VBED®)を企画開発、差別化を図る計画です。

○多機能マシンの開発

V字型マシンと他のマシンとの組み合わせによる「多機能ピラティスマシン」を企画開発しました。複数の専用マシンの活用には、相応のスペースが必要になりますが、このマシンにより省スペース化を図ることができ、新たな販路開拓が可能となります。

■今後の展開

(1) 製品ラインの拡充・製品改良

①既存製品の改良を進めながら、V字型マシンを基軸にした他のマシンとの組合せにより、製品ラインを拡充します。②立地条件をカバーするための販売促進策が重要であるため、エクササイズ機能やショールームのようなサービス提供ができる営業拠点の整備を図ります。③理学療法士、柔道整復師、ピラティスインストラクターをメンバーとする情報交流会の組織化、専門分野の垣根を超えたネットワークで、様々な場面での活用を目指します。

■経営革新計画策定に取り組んで

小関代表は、経営革新計画の策定に取り組んでみて良かった点としては、①計画を作る過程で、新たな視点や課題、アイデアの「気づき」が湧き出てきたこと、②目標に対する行動計画と数値計画が明確になったこと、③承認を取得したことで金融機関からの融資がスムーズにいったことを挙げています。

ピラティスマシン木製型VBED



住所: 198-0221 東京都西多摩郡奥多摩町
留浦1237旧小河内小学校内

TEL : 0428-26-2551

URL : <https://www.okutamapilates.com>

この人に聞く

島おとし・
多摩おとし清掃業から宿泊業へ——
地域を支える多角的経営の道

新島村

No.44

有限会社 青沼興業
代表取締役
青沼 信氏

青沼興業は、昭和42年12月に創業された老舗企業です。創業当初は砂鉄の採取を行っていましたが、時代の変化とともに清掃業へと転換しました。現在は三代目となる青沼信氏が、祖父から引き継いだ事業をさらに発展させています。

【清掃業から宿泊業への多角化】

清掃業は主に行政からの業務委託が中心でしたが、青沼氏は「行政委託の自由度の低さ」に課題を感じていました。

「行政からの委託業務は安定していますが、自社の裁量で動ける範囲が限られていました。より地域に貢献できる事業を模索していたんです」

そんな折、偶然出会った「ふじや旅館」を3時間で即決購入したことが、宿泊業への参入のきっかけとなりました。

「最初の宿も二棟目も偶然の出会いでした。二棟目は藤の花が特徴的な物件で、最初の『ふじや』と『藤』の縁を感じました。何かの導きだと思っています」

【リノベーションで得た学びと自信】

宿のリノベーションは自社スタッフと地元の職人たちで進めました。

「リノベーションを通じて職人の技術の素晴らしさを学び、外注費の削減にもつながりました。自分たちの手でやることで、自信を持ってお客様に提供できるようになったのは大きな収穫です」

清掃業で培った「きれいにする」技術が、宿泊業でも活かされています。

【商工会青年部長としての活動】

青沼氏は現在、商工会青年部長も務めています。令和7年度のスローガンは『発見される集団』。

「地域振興にはインフラとカルチャーの両輪が必要です。青年部での活動を通じて、他地域との交流や新たな視点を得ることができ、それが自社事業にも良い

影響をもたらしています」

【地域活性化への熱い思い】

青沼氏が危惧するのは、地域の宿泊施設の減少です。「高齢化による事業承継の問題で、宿泊施設が減少しています。地域の収容人数を増やすため、承継出来ない民宿の管理や、運営者を派遣する計画も考えています」

【今後の展望】

「インフラの拡充とカルチャーの融合を目指し、セントラルキッチンやランドリー事業の設立も視野に入れています。また火葬の管理業務も担い、地域の困りごとを解決することで貢献していきたいです」

企業理念は「カスタマーに寄り添うこと」。顧客のためなら社長と喧嘩することも許容される組織風土を大切にしているという青沼氏。地域に根ざした多角的経営で、これからも地域の発展に寄与していきます。



▲「3rd Place いおり」は、人里離れた波の音が聴こえる場所にあり、お一人様貸し切りのプライベート宿。



▲事業の軸となる清掃業では、ゴミの回収から焼却施設などの管理運営を行っている。



▲3時間で即決した「ふじや」は、島の中心にあり便利な立地。大人数の収容も可能。

有限会社 青沼興業

〒100-0402 東京都新島村本村3丁目1602-2

TEL: 04992-5-1095

URL: <https://www.fujiya-aonumamura.com/>